



『ROAD TO 2020～組織委員会／スポーツマネジャーからのメッセージ～』

「ご挨拶」

東京オリンピック・パラリンピック競技大会組織委員会の加藤（旧姓：門脇）裕子と申します。私は12歳頃にドイツでフェンシングを始め、慶應義塾体育會フェンシング部に所属しておりました。2003年頃からお仕事の合間に時間を作り、日本フェンシング協会事務局にて国際関連業務をお手伝いさせていただいておりました。その後、国際フェンシング連盟の総会等会議の通訳や、ナショナルチームの総務として協会の海外業務に同行する経験を積ませて頂き、国際委員会委員を経て、2013年から2017年までは国際担当理事・国際委員会委員長を仰せつかっておりました。

さて、本業は国際協力関連の仕事をしておりましたが、2012年からは東京オリンピック・パラリンピック招致委員会へ転職し、オリンピック28競技の国際競技連盟との折衝や、投票権を持つ約110名のIOC委員に対するロビー活動の補佐を行っておりました。開催が東京に決定された後、仕事の間を現職へ繋げていただくことができました。

理事を経験させて頂いた時は、正会員の皆様へ何一つご報告できなかったことが心残りでしたので、このような場をお借りして、皆様へ少なからず当方の声をお届けする機会を与えて頂き、大変感謝しております。1年間限定で月に1度、皆様にとって有用な情報を可能な限り御届けできればと思います。

ところで、皆様は2年後の東京オリンピックからフェンシング競技の全12種目が完全実施されることをご存知でしょうか。これまでは10種目だったのですが、最後の2種目が追加されたのです。これにより五輪のメダルを取る可能性がさらに高まりました。今回はこの「2種目追加」の裏側について、少しお話ししたいと思います。